



草笛学園 2026年 1月号

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

さて、新年がスタートしましたね。今年は寒さもそこまで厳しくはありませんが、寒暖差のある日が続きます。皆様も体調の方お気をつけてお過ごしください。

どんな時でもあなたの味方

子どもの基本的安全感を育てるために、おとなはことばと表情と態度で「あなたはあなたであっていい。あなたはかけがえのない存在」ということを伝えることが重要だと思いました。

態度で伝えるということの一つは、「どんな時でもあなたの味方だよ。どんなことがあっても、私はあなたの親であることから逃げないよ」という姿勢を子どもに示していくことだと思っています。

たとえば、お友だちにちょっといじめられると、打ちのめされたような思いで帰ってくる子どもがいます。客観的にみると「そんなことぐらいで何よ」と思うような場合でも、子どもは、「ヤラレタ。モウ、アノ子トハ遊バナイ」と言っています。そんな時、おとなは歯がゆく感じて、「何を言っているの。そんなこと言ったらだめよ。誰とでも仲良くするのよ」と説教したり、「やられたら、やり返しなさいよ」と焚きつけたりしがちです。そう言われると、子どもは自分が否定されたような気持になってしまいます。受け止められた感じがしないのです。「才母サンモ、ヤッパリ僕（私）ノ味方デハナイ」「ヤッパリ、僕（私）ノコト、ワカッテクレナイ」というふうに思ってしまうのです。子どもがつらいと思っているのであれば、それが客観的にはたいしたことのように思えなくても、まず「つらかったんだね」と受けとめることが大切なのではないでしょうか。

〈略〉よく「これぐらい、やり返してこい」とけしかけることがあります。けれど、やり返すことのできる子どもは、言われる前にやり返しているでしょう。やり返すことができないからつらいのです。「やり返さないあなたは弱虫」とでも言うようにハッパをかけられると、子どもはもっとつらくなってしまいます。

あるお母さんは、いじめられたと泣いている子どもに、「お母さんにして欲しかった時は、いつでもそう言つたらいいんだよ」と言ったそうです。本当は、こんな些細なことで出て行きたくないと思っていたそうですが、そう言うと子どもは「ウン」と言って

がんばって乗り越えていったそうです。

子どもにとって、「いつでもあなたの味方なんだよ」ときちんと表現することが大事だと思います。時には、子どもが悪いことをして、他人に謝らなければならないこともあるかもしれません。そんな時でも、子どもと一緒に泥をかぶる覚悟が、おとなには必要なのではないでしょうか。

引用文献「小学校までにつけておきたい力と学童期への見通し」丸山 美和子著

◎2月のさくらんぼ教室のお知らせ◎

さくらんぼ①：2月12日（木）13:00～

さくらんぼ②：2月26日（木）13:00～

活動・・・おたのしみかい（げーむ）

持ち物・・・帽子、水筒、動きやすい服

※保護者の方も動きやすい服装をお願いします

参加される皆様へ』～ご協力ををお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費はおやつ代 100 円です。製作やクッキングの活動の時には、材料費として追加で 100 円いただきます。その都度連絡いたします。
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意してください（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください

